



# 平成30年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年1月30日

上場会社名 株式会社 王将フードサービス  
 コード番号 9936 URL <http://www.ohsho.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 渡邊 直人

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 広報部長 (氏名) 内田 浩次

TEL 075-592-1411

四半期報告書提出予定日 平成30年2月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	58,551		4,052		4,222		2,733	
29年3月期第3四半期								

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 4,142百万円 ( %) 29年3月期第3四半期 百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	146.01	
29年3月期第3四半期		

(注) 平成30年3月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成29年3月期第3四半期の数値及び対前年同四半期増減率は記載していません。

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第3四半期	64,697	45,716	70.7
29年3月期			

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 45,716百万円 29年3月期 百万円

(注) 平成30年3月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成29年3月期の数値は記載していません。

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		60.00		60.00	120.00
30年3月期		60.00			
30年3月期(予想)				60.00	120.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	77,696		5,680		5,947		3,895		208.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 平成30年3月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率は記載していません。

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期3Q	23,286,230 株	29年3月期	23,286,230 株
期末自己株式数	30年3月期3Q	4,563,586 株	29年3月期	4,563,459 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期3Q	18,722,716 株	29年3月期3Q	18,861,791 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

＜ 連結経営成績サマリー ＞			
	金額	構成比	前年同期比(参考)
売上高	58,551 百万円	100.0 %	3.2 %増加
営業利益	4,052 百万円	6.9 %	5.2 %減少
経常利益	4,222 百万円	7.2 %	7.0 %減少
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,733 百万円	4.7 %	13.5 %減少
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全店客数前年同期比0.0%減(既存店2.4%減)…直営店実績</li> <li>・ 既存店売上高対前年同期比0.8%増収…直営店実績</li> </ul>			

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業部門では、輸出の増加を受け、生産が拡大基調にあるほか、設備投資の増加や堅調な企業収益を背景に良好な雇用・所得環境が続くなど、国内景気は緩やかな回復基調が続いている一方、家計部門では、物価上昇、先行きの不透明感による節約志向が続いているとともに、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動に留意する必要があるなど、先行きは決して予断を許さない状況にあります。

外食業界におきましては、売上高が16か月連続で前年の水準を上回ったものの、深刻さが続く人手不足や、天候不順による客足への影響、人件費や食材などのコスト上昇を受けメニュー価格を引き上げる企業が相次ぎ、家計の外食マインドを押し下げる要因になることが懸念されるなど、先行きは依然として不透明で推移しております。

このような状況下当社グループは、3年をかけて取り組んできた労働環境の整備をベースに営業力強化を図るべく店舗研修を再開し、QSCの徹底的なレベルアップに取り組むとともに、お客様に対する感謝の気持ちを込めた販売促進、それをバックアップする組織改革と社内外からの人材登用等を実施してまいりました。「創業50年お客様感謝キャンペーン」や「創業50年感謝メニュー」が大変好評を得られたこともあり、7～9月に続き、11月も直営全店売上高が同月比で過去最高を更新することができました。さらに創業50周年となる12月24日には50年分の感謝を込めて「50周年創業祭」を実施した結果、12月の全社売上高は同月のこれまでの最高売上を更新することができました。

また、多様化する顧客ニーズに対応し、新たな顧客層の開拓のため、夢の街創造委員会株式会社が運営する日本最大級の宅配ポータルサイト「出前館」のシェアリングデリバリーを活用し、道玄坂店（東京都渋谷区）において、デリバリーサービスを開始致しました。当社のコアの顧客層とは異なる新たな顧客層の開拓につながっており、ここでのマーケティングを通じて市場ニーズを探り、事業の可能性を追求してまいります。

海外におきましては、台湾1号店「餃子の王将 高雄漢神巨蛋店」が連日ご盛況を頂いており、焼き餃子をご飯のおかずとする新しい食べ方が受け入れられています。更なる展開に備えるべく、当該子会社への増資を実施し、11月22日には台湾2号店「餃子の王将 高雄漢神成功店」をオープンいたしました。

株主の皆様には、配当性向50%の株主還元方針に加え、実質利回りの向上により当社株式への投資魅力を高め中長期的に保有いただくことを目的として株主優待制度の拡充をいたしました。

これから先の50年も、もっとお客様から「褒められる店」を創ることを目標に、今ここに留まることなく、更なる成長を目指して「Keep on Going ～前に進み続けよう～」を2018年スローガンとして掲げ、全従業員一丸となって前に進み続けてまいります。

当第3四半期連結累計期間の店舗展開の状況につきましては、直営16店、F C 3店の新規出店を行っております。これにより第3四半期末店舗数は、直営502店、F C 234店となりました。

#### ① 売上高

売上高は、来店客数は減少となりましたが、客単価アップが寄与しており、直営店既存店売上高が増収となった上、新店効果も相俟って、585億51百万円（前年同四半期比3.2%増）となりました。

#### ② 営業利益

営業利益は、人件費や減価償却費、販売促進費の増加等もあり、40億52百万円（前年同四半期比5.2%減）となりました。

#### ③ 経常利益

経常利益は、上記理由等により、42億22百万円（前年同四半期比7.0%減）となりました。

#### ④ 親会社株主に帰属する四半期純利益

親会社株主に帰属する四半期純利益は、上記理由や収用補償金の減少等により、27億33百万円（前年同四半期比13.5%減）となりました。

なお、当社は前第3四半期累計期間では四半期財務諸表を作成しておりましたが、第1四半期連結会計期間より子会社「王将餐飲服務股份有限公司」及び「株式会社王将ハートフル」の事業活動を開始したため、第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しております。従いまして、前年同期間との比較は前第3四半期累計期間の個別四半期財務諸表と比較した前年同四半期比を参考として記載しております。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における総資産の残高は、646億97百万円となりました。

流動資産は、132億69百万円となりました。主な内訳は現金及び預金が111億4百万円です。

固定資産は、514億28百万円となりました。主な内訳は土地が208億57百万円、建物及び構築物が140億39百万円です。

#### (負債の部)

当第3四半期連結会計期間末における負債の残高は、189億81百万円となりました。

流動負債は、144億20百万円となりました。主な内訳は1年内返済予定の長期借入金が33億15百万円、短期借入金が30億円です。

固定負債は、45億60百万円となりました。主な内訳は長期借入金が31億4百万円です。なお、借入金の残高は94億19百万円となりました。

(純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は、457億16百万円となりました。主な内訳は利益剰余金が382億17百万円であります。以上の結果、自己資本比率は70.7%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、111億となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、39億1百万円(前年同四半期比33.1%減)となりました。主な要因は未払消費税等の減少であります。

主な内訳は、税金等調整前四半期純利益42億27百万円に減価償却費23億9百万円等を加えた額から、未払消費税等の減少額4億75百万円、法人税等の支払額18億69百万円等を減じた額であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、15億12百万円(前年同四半期比28.1%減)となりました。主な要因は有形固定資産の取得による支出の減少であります。

主な内訳は、有形固定資産の取得による支出15億17百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、31億43百万円となりました。主な要因は借入金の純減少額の増加であります。

主な内訳は、借入金の純減少額8億96百万円による支出、配当金の支払額22億46百万円による支出であります。

なお、当社は前第3四半期累計期間では四半期財務諸表を作成しておりましたが、第1四半期連結会計期間より子会社「王将餐飲服務股份有限公司」及び「株式会社王将ハートフル」の事業活動を開始したため、第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しております。従いまして、前年同期間との比較は前第3四半期累計期間の個別四半期財務諸表と比較した前年同四半期比を参考として記載しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当初(平成29年5月15日決算発表時)の見通しに対して、業績予想は変更しておりません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

		(単位：百万円)
		当第3四半期 連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金		11,104
売掛金		452
商品及び製品		129
原材料		406
その他		1,201
貸倒引当金		△25
流動資産合計		13,269
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物		52,314
減価償却累計額		△38,274
建物及び構築物(純額)		14,039
機械装置及び運搬具		5,553
減価償却累計額		△3,127
機械装置及び運搬具(純額)		2,425
工具、器具及び備品		5,553
減価償却累計額		△4,568
工具、器具及び備品(純額)		985
土地		20,857
建設仮勘定		64
有形固定資産合計		38,372
無形固定資産		110
投資その他の資産		
投資有価証券		7,584
差入保証金		4,178
その他		1,206
貸倒引当金		△23
投資その他の資産合計		12,944
固定資産合計		51,428
資産合計		64,697
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金		2,342
短期借入金		3,000
1年内返済予定の長期借入金		3,315
未払法人税等		530
賞与引当金		458
その他		4,774
流動負債合計		14,420
固定負債		
長期借入金		3,104
資産除去債務		754
その他		701
固定負債合計		4,560
負債合計		18,981

(単位：百万円)

当第3四半期  
連結会計期間  
(平成29年12月31日)

純資産の部	
株主資本	
資本金	8,166
資本剰余金	9,031
利益剰余金	38,217
自己株式	△10,824
株主資本合計	44,590
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	4,709
土地再評価差額金	△3,554
為替換算調整勘定	△10
退職給付に係る調整累計額	△18
その他の包括利益累計額合計	1,125
純資産合計	45,716
負債純資産合計	64,697

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 四半期連結損益計算書  
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	58,551
売上原価	17,800
売上総利益	40,750
販売費及び一般管理費	36,698
営業利益	4,052
営業外収益	
受取利息	2
受取配当金	47
F C加盟料	91
受取地代家賃	49
雑収入	113
営業外収益合計	304
営業外費用	
支払利息	18
賃貸費用	46
災害義援金	54
雑損失	14
営業外費用合計	134
経常利益	4,222
特別利益	
固定資産売却益	0
収用補償金	36
特別利益合計	36
特別損失	
固定資産除却損	31
特別損失合計	31
税金等調整前四半期純利益	4,227
法人税、住民税及び事業税	1,353
法人税等調整額	140
法人税等合計	1,493
四半期純利益	2,733
非支配株主に帰属する四半期純利益	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,733

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

	(単位：百万円)
	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益	2,733
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	1,426
為替換算調整勘定	△10
退職給付に係る調整額	△8
その他の包括利益合計	1,408
四半期包括利益	4,142
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	4,142
非支配株主に係る四半期包括利益	-

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

当第3四半期連結累計期間  
(自平成29年4月1日  
至平成29年12月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	4,227
減価償却費	2,309
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△7
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	8
受取利息及び受取配当金	△50
支払利息	18
収用補償金	△36
固定資産売却損益(△は益)	△0
固定資産除却損	31
たな卸資産の増減額(△は増加)	△95
仕入債務の増減額(△は減少)	348
未払消費税等の増減額(△は減少)	△475
その他	△574
小計	5,704
利息及び配当金の受取額	48
利息の支払額	△18
収用補償金の受取額	36
法人税等の支払額	△1,869
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,901
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の増減額(△は増加)	4
有形固定資産の取得による支出	△1,517
有形固定資産の売却による収入	0
貸付けによる支出	△27
貸付金の回収による収入	37
差入保証金の差入による支出	△90
その他	80
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,512
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額(△は減少)	△2,000
長期借入れによる収入	4,499
長期借入金の返済による支出	△3,396
自己株式の取得による支出	△0
配当金の支払額	△2,246
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,143
現金及び現金同等物に係る換算差額	△10
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△765
現金及び現金同等物の期首残高	11,741
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	124
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,100

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当しておりませんが、第1四半期連結会計期間より子会社「王将餐飲服務股份有限公司」及び「株式会社王将ハートフル」の事業活動を開始したため、連結の範囲に含めております。